

帰国技能実習生フォローアップ調査(平成26年度) (結果概要)

「技能実習生修了者に関する基礎的研究」アンケート調査結果より

調査の概要

1 調査趣旨

この調査は、技能実習を終了し帰国した技能実習生について、日本での技能修得状況、帰国後の就職状況、日本で修得した技術、技能、知識等の活用状況などを把握することにより、技能実習生の帰国後の実態を明らかにすることを目的に実施した。

2 調査対象

この調査の対象は、技能実習 2 号を修了し、2014 年 10 月 10 日から 11 月 30 日までの間に帰国（予定を含む。）した 6,274 名を対象としている。

技能実習生の国籍の選定にあたっては、技能実習生全体の 99%以上を占める上位 5 カ国である中国、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナムとした。

表1 調査対象者(国籍別人数)

企業単独	224
インドネシア共和国	35
タイ王国	5
フィリピン共和国	5
ベトナム社会主義共和国	53
中華人民共和国	126
監理団体	6,050
インドネシア共和国	429
タイ王国	120
フィリピン共和国	528
ベトナム社会主義共和国	708
中華人民共和国	4,265
総計	6,274

3 調査方法

(1) 厚生労働省から提供された名簿に基づき、調査対象者の所属する監理団体および企業単独型受入企業に対し、対象人数分の母国語調査票をリストとともに送付し、本人への配布を依頼した。

(2) 調査票は、調査対象者の母国語(中国語、インドネシア語、タイ語、フィリピン語、ベトナム語)の 5 か国語に翻訳した。

(3) 調査対象者は、帰国後調査票に回答し、帰国日から 1 か月以内に、母国から投函等で労働政策研究・研修機構に調査票を返送(郵送、FAX、Eメール)。

(4) 回答は原則無記名であるが、同時に行う予定であるヒヤリング調査への協力を求めていることから、任意で記名とした。多肢選択方式(一部自由記入欄あり)で行った。

4 調査項目

調査票(末尾< 付属 >)を参照。

5 調査時期

(1) 調査票の配布期間

2014 年 10 月 7 日から 10 日までの間に、対象者が所属する監理団体及び企業単独型受入れ企業経由で配布した。

(2) 調査票の回収期間と方法

回収期間は、2014 年 10 月 14 日から 2015 年 2 月 24 日である。また、回収方法は、国際受取人払いを含む郵送による回収が 571 通、Eメールが 6 通(中国 5 通、フィリピン 1 通)、ファックス 1 通(フィリピン)であった。

6 有効回答率

2015 年 3 月 31 日時点での回答状況は、有効回答数が 578 票。(9.2%)

アンケート調査結果の概要

1. 調査対象者の属性

(1) 技能実習タイプ別回答状況

技能実習タイプ別の回答者数は、「企業単独型」が9.2%、「団体監理型」が90.1%で、「団体監理型」が多い(図1)。国別に見ると、いずれの国も「団体監理型」が多いが、タイは「企業単独型」の比率が他の国に比べて高い(表2)。

図1 技能実習タイプ別回答状況(N=578)

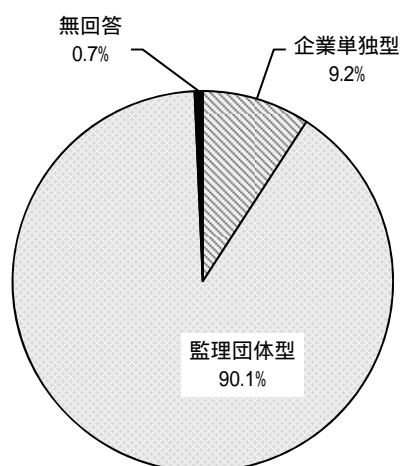


表2 技能実習タイプ別回答状況(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
企業単独型	28	0	4	8	13	53
	7.1%	0.0%	6.0%	13.1%	48.1%	9.2%
団体監理型	366	26	62	53	14	521
	92.2%	100.0%	92.5%	86.9%	51.9%	90.1%
無回答	3	0	1	0	0	4
	0.8%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表の上段の数値は回答数、下段の数値は列の数値に対する%。以下同じ。

(2) 性別回答状況

性別回答状況を見ると、「男性」が45.7%に対して、「女性」は53.3%で、「女性」の方がやや高い(図2)。国別に見ると、中国は、「女性」が多いが、フィリピン、インドネシア、タイは「男性」の比率が高い。ベトナムは男女同数であった。(表3)

図2 性別回答状況(N=578)

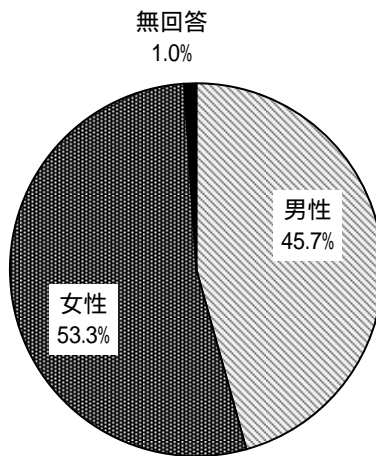


表3 性別回答状況(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
男性	143	13	38	55	15	264
	36.0%	50.0%	56.7%	90.2%	55.6%	45.7%
女性	249	13	28	6	12	308
	62.7%	50.0%	41.8%	9.8%	44.4%	53.3%
無回答	5	0	1	0	0	6
	1.3%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.0%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 年齢別回答状況

年齢別回答状況を見ると、「20歳以上25歳以下」が39.3%、「26歳以上30歳以下」が33.4%、「31歳以上」が27.3%となっている(図3)。国別に見ると、中国、ベトナムは「20歳以上25歳以下」の比率が高く、フィリピン、インドネシアは「26歳以上30歳以下」の比率が高く、タイは「31歳以上」の比率が高い(表4)。

図3 年齢別回答状況(N=578)

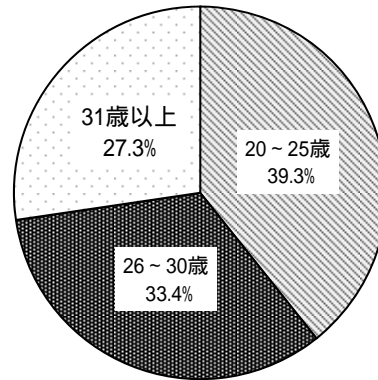


表4 年齢別回答状況(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
20歳以上 25歳以下	174	13	9	23	8	227
	43.8%	50.0%	13.4%	37.7%	29.6%	39.3%
26歳以上 30歳以下	114	11	31	32	5	193
	28.7%	42.3%	46.3%	52.5%	18.5%	33.4%
31歳以上	109	2	27	6	14	158
	27.5%	7.7%	40.3%	9.8%	51.9%	27.3%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 職種別回答状況

職種別回答状況を見ると、「機械・金属製品製造」が24.9%で最も多く、以下、「縫製・衣服縫製」(16.1%)、「食料品製造」(11.2%)、「その他」(14.9%)などの順になっている(図4)。国別に見ると、中国は「機械・金属製品製造」(24.9%)、「縫製・衣服縫製」(20.2%)が、ベトナムは、「縫製・衣服(縫製)」(26.9%)、「機械・金属製品製造」(19.2%)、フィリピンは「機械・金属製品製造」(22.4%)、「食料品製造」(19.4%)、インドネシアは「機械・金属製品製造」(29.5%)、「その他」(23.0%)、タイは「プラスチック成形(強化プラスチック成形含む)」(29.6%)、「機械・金属製品製造」(25.9%)、「その他」(25.9%)がそれぞれ多い(表5)。

図4 職種別回答状況(N=578)

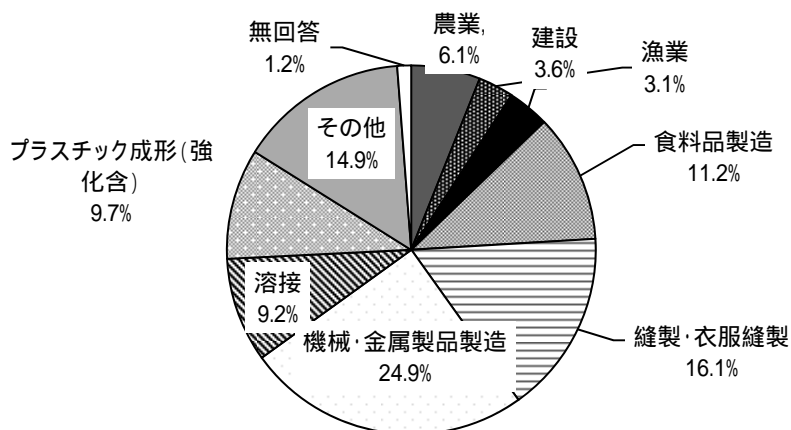


表5 職種別回答状況(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
農業	17	2	3	12	1	35
	4.3%	7.7%	4.5%	19.7%	3.7%	6.1%
漁業	17	0	0	1	0	18
	4.3%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	3.1%
建設	19	0	0	2	0	21
	4.8%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	3.6%
食料品製造	52	0	13	0	0	65
	13.1%	0.0%	19.4%	0.0%	0.0%	11.2%
縫製・衣服(縫製)	80	7	5	0	1	93
	20.2%	26.9%	7.5%	0.0%	3.7%	16.1%
機械・金属製品製造	99	5	15	18	7	144
	24.9%	19.2%	22.4%	29.5%	25.9%	24.9%
溶接	25	4	12	9	3	53
	6.3%	15.4%	17.9%	14.8%	11.1%	9.2%
プラスチック成形(強化プラスチック成形含む)	30	3	10	5	8	56
	7.6%	11.5%	14.9%	8.2%	29.6%	9.7%
その他	52	5	8	14	7	86
	13.1%	19.2%	11.9%	23.0%	25.9%	14.9%
無回答	6	0	1	0	0	7
	1.5%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.2%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. 来日前の技能実習生の状況

(1) 来日前の仕事(有効回答数 578)

来日前の仕事を尋ねたところ、「雇用されて働いていた」が83.6%で最も多く、以下、「仕事はしていなかった」(8.7%)、「起業していた」(2.6%)などが多かった(図5)。

国別に見ると、中国は「雇用されて働いていた」(91.2%)、ベトナムは「雇用されて働いていた」(57.7%)、「仕事はしていなかった」(26.9%)、フィリピンは「雇用されて働いていた」(79.1%)、「仕事はしていなかった」(17.9%)、インドネシアは「雇用されて働いていた」(52.5%)、「仕事はしていなかった」(26.2%)、タイは「雇用されて働いていた」(77.8%)、「その他」(18.5%)などとなっている(表6。)

図5 来日前の仕事(N=578)

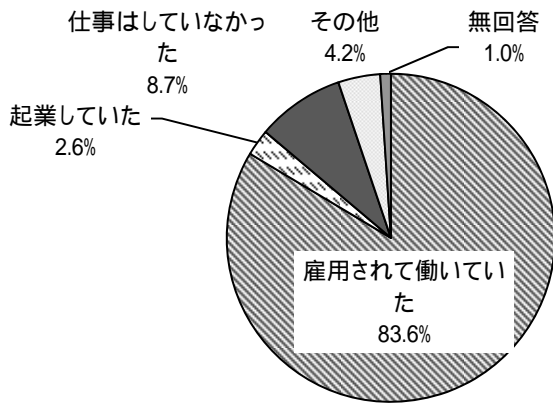


表6 来日前の仕事(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
雇用されて働いていた	362 91.2%	15 57.7%	53 79.1%	32 52.5%	21 77.8%	483 83.6%
起業していた	8 2.0%	1 3.8%	0 0.0%	5 8.2%	1 3.7%	15 2.6%
仕事はしていなかった	15 3.8%	7 26.9%	12 17.9%	16 26.2%	0 0.0%	50 8.7%
その他	6 1.5%	3 11.5%	2 3.0%	8 13.1%	5 18.5%	24 4.2%
無回答	6 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.0%
合計	397 100.0%	26 100.0%	67 100.0%	61 100.0%	27 100.0%	578 100.0%

(2) 来日の目的

技能実習生として来日した目的を複数回答で尋ねたところ、「お金を稼ぐため」が74.2%で最も多く、以下、「技能の修得のため」(69.2%)、「日本での生活を経験するため」(48.6%)、「日本語を勉強するため」(44.8%)、「帰国後起業するため」(27.7%)、「その他」(2.4%)、「無回答」(1.0%)などが多かった(図6)。

図6 来日の目的(N=578、複数回答)

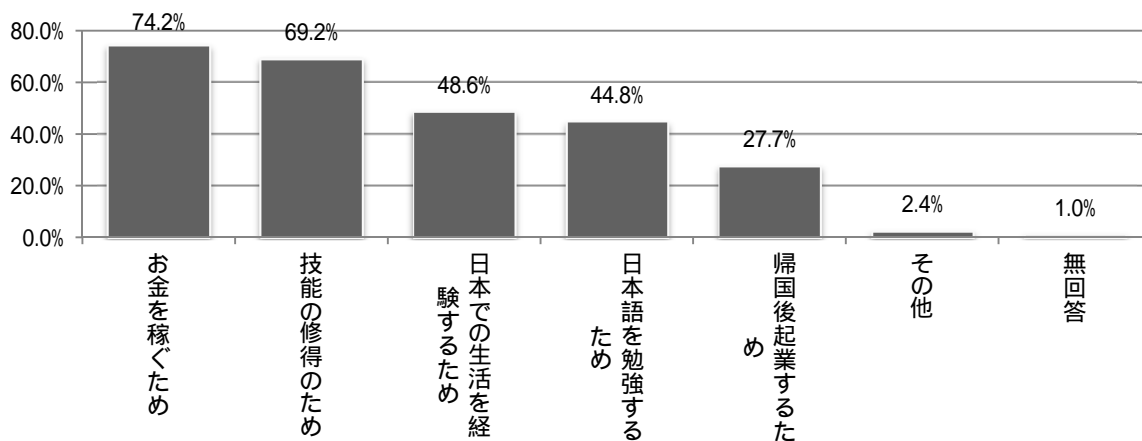


表7 来日の目的(N=578、複数回答)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
技能の修得のため	255	24	44	53	24	400
	64.2%	92.3%	65.7%	86.9%	88.9%	69.2%
日本語を勉強するため	165	16	22	39	17	259
	41.6%	61.5%	32.8%	63.9%	63.0%	44.8%
日本での生活を経験するため	178	16	24	41	22	281
	44.8%	61.5%	35.8%	67.2%	81.5%	48.6%
お金を稼ぐため	293	25	55	32	24	429
	73.8%	96.2%	82.1%	52.5%	88.9%	74.2%
帰国後起業するため	90	10	20	36	4	160
	22.7%	38.5%	29.9%	59.0%	14.8%	27.7%
その他	5	2	4	1	2	14
	1.3%	7.7%	6.0%	1.6%	7.4%	2.4%
無回答	6	0	0	0	0	6
	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
合計	397	26	67	61	27	578

国別に見ると、中国は「お金を稼ぐため」(73.8%)、「技能の修得のため」(64.2%)、ベトナムが「お金を稼ぐため」(96.2%)、「技能の修得のため」(92.3%)、フィリピンが「お金を稼ぐため」(82.1%)、「技能の修得のため」(65.7%)、インドネシアが「技能の修得のため」(86.9%)、「日本での生活を経験するため」(67.2%)、タイが「技能の修得のため」(88.9%)、「お金を稼ぐため」(88.9%)などが多い(表7)。

3. 技能実習の効果

(1) 日本での技能実習は役立っているか

日本での技能実習が役立ったかどうかを尋ねたところ、「役に立った」という回答が98.4%、「役に立たなかった」が1.0%であった(図7)。国別に見ると、中国は「役に立った」が97.7%、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイは「役に立った」が100.0%であった(表8)。

図7 日本での技能実習は役立っているか(N=578)

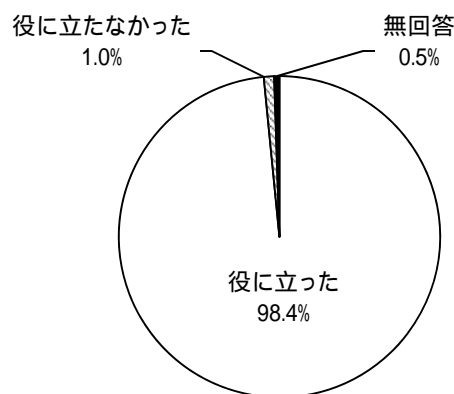


表8 日本での技能実習は役立っているか(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
役に立った	388 97.7%	26 100.0%	67 100.0%	61 100.0%	27 100.0%	569 98.4%
役に立たなかった	6 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 1.0%
無回答	3 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 0.5%
合計	397 100.0%	26 100.0%	67 100.0%	61 100.0%	27 100.0%	578 100.0%

図8 具体的にどのようなことが役に立ったのか(N=569、複数回答)

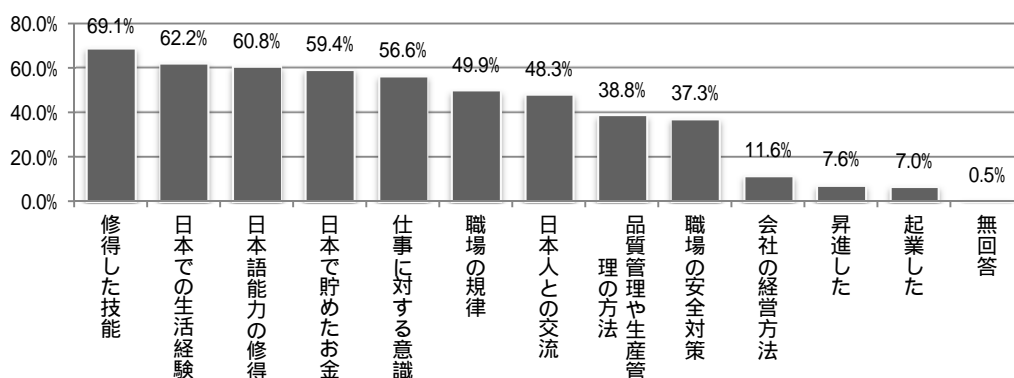


表9 具体的にどのようなことが役に立ったのか(N=569、複数回答)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
修得した技能	249	24	46	51	23	393
	64.2%	92.3%	68.7%	83.6%	85.2%	69.1%
品質管理や生産管理の方法	153	5	30	19	14	221
	39.4%	19.2%	44.8%	31.1%	51.9%	38.8%
仕事に対する意識	204	20	39	42	17	322
	52.6%	76.9%	58.2%	68.9%	63.0%	56.6%
職場の規律	179	19	32	29	25	284
	46.1%	73.1%	47.8%	47.5%	92.6%	49.9%
職場の安全対策	119	16	22	36	19	212
	30.7%	61.5%	32.8%	59.0%	70.4%	37.3%
会社の経営方法	39	3	6	14	4	66
	10.1%	11.5%	9.0%	23.0%	14.8%	11.6%
日本語能力の修得	215	16	39	52	24	346
	55.4%	61.5%	58.2%	85.2%	88.9%	60.8%
日本人との交流	162	19	40	32	22	275
	41.8%	73.1%	59.7%	52.5%	81.5%	48.3%
日本での生活経験	218	20	42	50	24	354
	56.2%	76.9%	62.7%	82.0%	88.9%	62.2%
日本で貯めたお金	238	12	40	29	19	338
	61.3%	46.2%	59.7%	47.5%	70.4%	59.4%
昇進した	38	3	0	0	2	43
	9.8%	11.5%	0.0%	0.0%	7.4%	7.6%
起業した	14	4	11	7	4	40
	3.6%	15.4%	16.4%	11.5%	14.8%	7.0%
無回答	3	0	0	0	0	3
	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	388	26	67	61	27	569

(2) 具体的にどのようなことが役に立ったのか

具体的にどのようなことが役に立ったのか、複数回答で尋ねたところ、「修得した技能」が69.1%で最も多く、以下、「日本での生活経験」(62.2%)、「日本語能力の修得」(60.8%)、

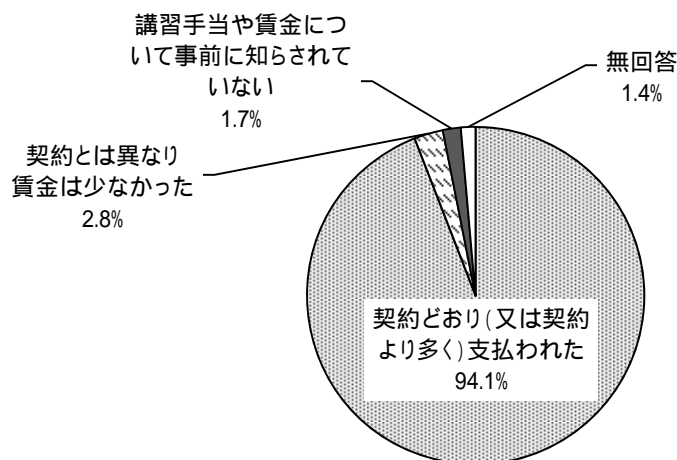
「日本で貯めたお金」(59.4%)などとなっている(図8)。国別に見ると、中国は「修得した技能」(64.2%)、「日本で貯めたお金」(61.3%)、ベトナムは「修得した技能」(92.3%)、「仕事に対する意識」(76.9%)、「日本での生活経験」(76.9%)、フィリピンは「修得した技能」(68.7%)、「日本での生活経験」(62.7%)、インドネシアが「日本語能力の修得」(85.2%)、「修得した技能」(83.6%)、タイが「職場の規律」(92.6%)、「日本語能力の修得」(88.9%)、「日本での生活経験」(88.9%)などとなっている(表9)。

4. 技能実習の具体的状況

(1) 実習期間中の賃金支払い状況

技能実習中の賃金支払い状況を尋ねたところ、「契約どおり(又は契約より多く)支払われた」が94.1%で、「契約とは異なり賃金は少なかった」は2.8%であった(図9)。

図9 実習期間中の賃金支払い状況(N=578)



国別に見ると、「契約どおり(又は契約より多く)支払われた」という回答の比率は、中国が93.2%、ベトナムが100.0%、フィリピンが95.5%、インドネシアが95.1%、タイが96.3%で、ほとんどの場合、賃金が契約どおり(又は契約より多く)支払われている(表10)。

表 10 実習期間中の賃金支払い状況(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
契約どおり(又は契約より多く)支払われた	370 93.2%	26 100.0%	64 95.5%	58 95.1%	26 96.3%	544 94.1%
契約とは異なり賃金は少なかった	12 3.0%	0 0.0%	2 3.0%	2 3.3%	0 0.0%	16 2.8%
講習手当や賃金について事前に知らされていない	9 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	10 1.7%
無回答	6 1.5%	0 0.0%	1 1.5%	1 1.6%	0 0.0%	8 1.4%
合計	397 100.0%	26 100.0%	67 100.0%	61 100.0%	27 100.0%	578 100.0%

(2) 実習期間中禁止されていたこと

技能実習期間中に禁止されていた事項の有無を尋ねたところ、「なかった」という回答が92.2%、無回答が3.5%であった。禁止されていた事項を見ると、「携帯電話の使用を禁止された」(3.3%)、「技能実習生だけで外出することを禁止された」(1.0%)、「インターネットの使用を禁止された」(0.7%)などとなっている(図10)。

国別に技能実習期間中に禁止されていた事項の有無をみると、「なかった」という回答の比率は、中国が94.2%、ベトナムが96.2%、フィリピンが83.6%、インドネシアが88.5%、タイが85.2%などとなっている(表11)。

図 10 実習期間中禁止されていたこと(N=578、複数回答)

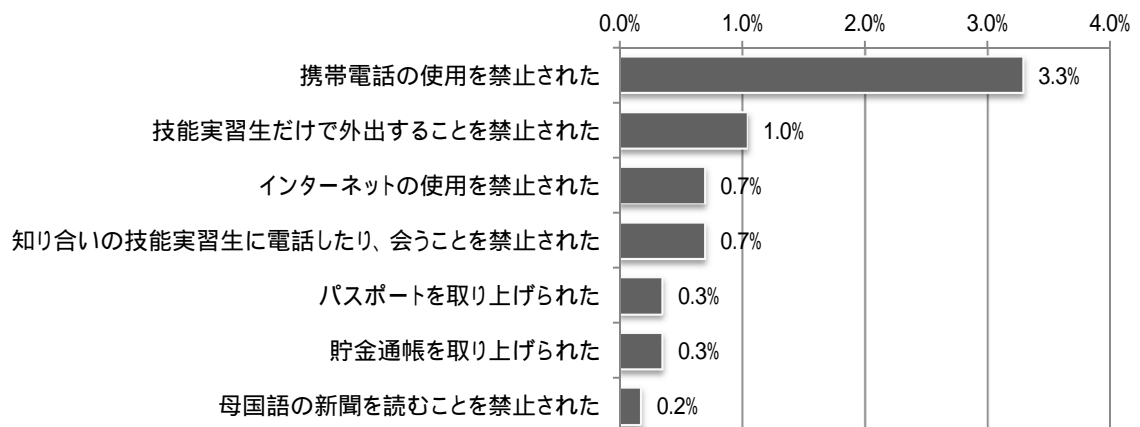


表 11 実習期間中禁止されていたこと(N=578、複数回答)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
携帯電話の使用を禁止された	10	1	4	1	3	19
	2.5%	3.8%	6.0%	1.6%	11.1%	3.3%
インターネットの使用を禁止された	2	0	0	1	1	4
	0.5%	0.0%	0.0%	1.6%	3.7%	0.7%
パスポートを取り上げられた	2	0	0	0	0	2
	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
貯金通帳を取り上げられた	2	0	0	0	0	2
	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
母国語の新聞を読むことを禁止された	0	0	1	0	0	1
	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.2%
技能実習生だけで外出することを禁止された	4	0	0	1	1	6
	1.0%	0.0%	0.0%	1.6%	3.7%	1.0%
日本にいる知り合いの技能実習生に電話したり、会うことを禁止された	2	0	2	0	0	4
	0.5%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.7%
上記のようなことはなかった	375	25	56	54	23	533
	94.5%	96.2%	83.6%	88.5%	85.2%	92.2%
無回答	10	0	6	4	0	20
	2.5%	0.0%	9.0%	6.6%	0.0%	3.5%
合計	397	26	67	61	27	578

(3) 実習期間中の相談相手

実習期間中の相談相手は誰であったのかを複数回答で尋ねたところ、「技能実習機関の生活指導員」が62.5%で最も多く、以下、「監理団体の担当者」(44.3%)、「送り出し機関」(29.4%)などが多かった(図11)。

国別に見ると、中国は「技能実習機関の生活指導員」(71.5%)、「監理団体の担当者」(47.4%)、ベトナムは「監理団体の担当者」(38.5%)、「技能実習機関の生活指導員」(26.9%)、フィリピンが「技能実習機関の生活指導員」(43.3%)、「監理団体の担当者」(37.3%)、インドネシアが「技能実習機関の生活指導員」(57.4%)、「監理団体の担当者」(23.0%)、タイが「監理団体の担当者」(70.4%)、「送り出し機関」(37.0%)などが多い(表12)。

図 11 実習期間中の相談相手(N=578、複数回答)

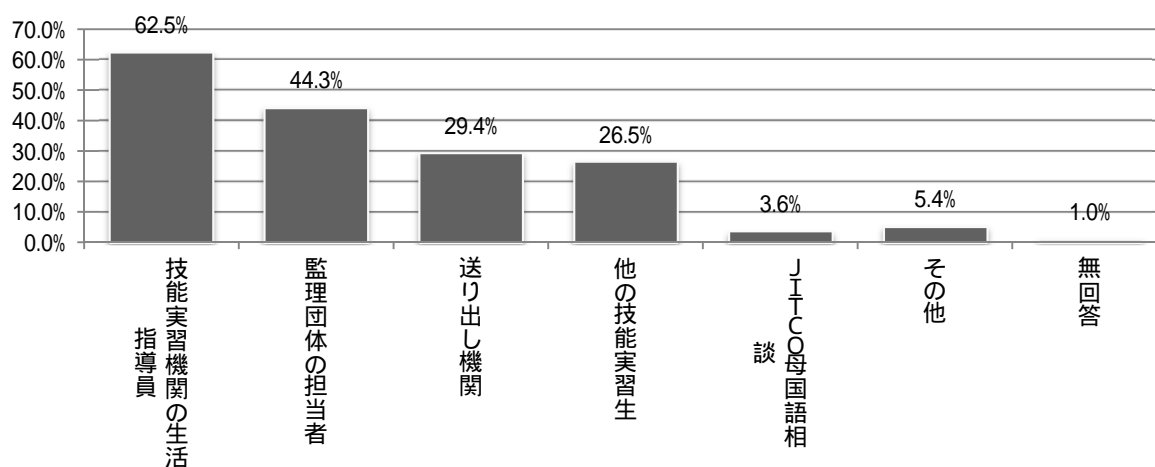


表 12 実習期間中の相談相手(N=578、複数回答)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
技能実習機関の生活指導員	284	7	29	35	6	361
	71.5%	26.9%	43.3%	57.4%	22.2%	62.5%
J I T C O 母国語相談	3	6	8	4	0	21
	0.8%	23.1%	11.9%	6.6%	0.0%	3.6%
他の技能実習生	128	6	10	5	4	153
	32.2%	23.1%	14.9%	8.2%	14.8%	26.5%
監理団体の担当者	188	10	25	14	19	256
	47.4%	38.5%	37.3%	23.0%	70.4%	44.3%
送り出し機関	143	5	7	5	10	170
	36.0%	19.2%	10.4%	8.2%	37.0%	29.4%
その他	18	1	1	10	1	31
	4.5%	3.8%	1.5%	16.4%	3.7%	5.4%
無回答	3	0	2	1	0	6
	0.8%	0.0%	3.0%	1.6%	0.0%	1.0%
合計	397	26	67	61	27	578

(4) 実習期間中に困ったことの有無

実習期間中に困ったことがあったかどうか尋ねたところ、「困ったことはあった」が 32.0%、「困ったことはなかった」が 67.3%であった(図 12)。

国別に「困ったことはあった」という比率を見ると、中国が 31.7%、ベトナムが 23.1%、フィリピンが 19.4%、インドネシアが 45.9%、タイが 44.4%であった(表 13)。

図 12 実習期間中に困ったことの有無(N=578)

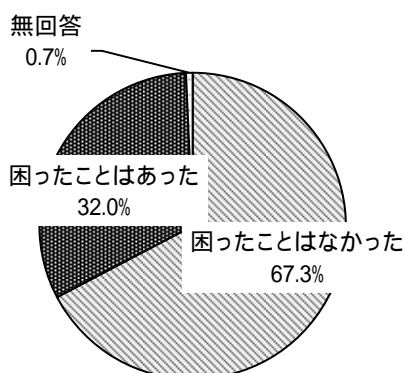


表 13 実習期間中に困ったことの有無(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
困ったことはなかった	268	20	53	33	15	389
	67.5%	76.9%	79.1%	54.1%	55.6%	67.3%
困ったことはあった	126	6	13	28	12	185
	31.7%	23.1%	19.4%	45.9%	44.4%	32.0%
無回答	3	0	1	0	0	4
	0.8%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 具体的に困ったこと(内容)

「実習期間中に困ったことはあった」と回答した者に対して、具体的な内容を複数回答で尋ねたところ、「家族と離れて寂しかった」が74.6%で最も多く、以下、「残業が少ない」(21.6%)、「仕事が厳しい(きつい)」(18.9%)、「家賃が高い」(16.2%)などが多かった(図13)。

国別に見ると、中国は「家族と離れて寂しかった」(77.0%)、「残業が少ない」(21.4%)、ベトナムが「家族と離れて寂しかった」(66.7%)、「残業が少ない」(50.0%)、フィリピンが「家族と離れて寂しかった」(76.9%)、「家賃が高い」(23.1%)、インドネシアが「家族と離れて寂しかった」(64.3%)、「有給休暇を取得できない」(39.3%)、タイが「家族と離れて寂しかった」(75.0%)、「仕事が厳しい(きつい)」(33.3%)などが多い(表14)。

図 13 具体的にこまったこと(内容)(N=185、複数回答)

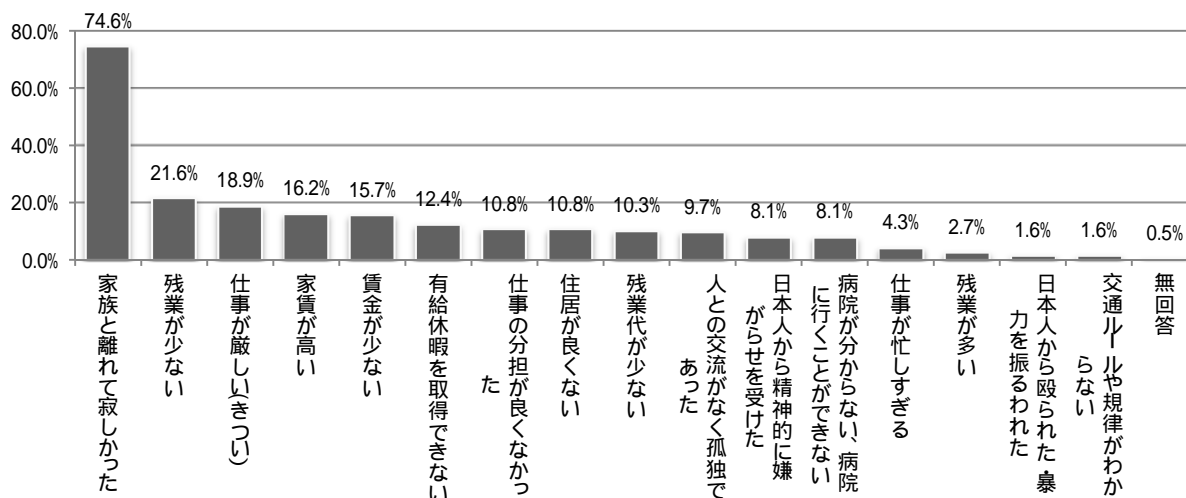


表 14 具体的にこまったこと(内容)(N=185、複数回答)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
仕事が厳しい(きつい)	25	1	1	4	4	35
	19.8%	16.7%	7.7%	14.3%	33.3%	18.9%
仕事が忙しすぎる	5	0	0	2	1	8
	4.0%	0.0%	0.0%	7.1%	8.3%	4.3%
仕事の分担が良くなかった	13	2	0	4	1	20
	10.3%	33.3%	0.0%	14.3%	8.3%	10.8%
残業が多い	4	0	0	1	0	5
	3.2%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	2.7%
残業が少ない	27	3	2	8	0	40
	21.4%	50.0%	15.4%	28.6%	0.0%	21.6%
日本人から殴られた・暴力を振るわれた	2	0	0	1	0	3
	1.6%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	1.6%
日本人から精神的に嫌がらせを受けた	10	0	0	3	2	15
	7.9%	0.0%	0.0%	10.7%	16.7%	8.1%
賃金が少ない	19	2	0	5	3	29
	15.1%	33.3%	0.0%	17.9%	25.0%	15.7%
残業代が少ない	12	2	1	4	0	19
	9.5%	33.3%	7.7%	14.3%	0.0%	10.3%
有給休暇を取得できない	11	0	1	11	0	23
	8.7%	0.0%	7.7%	39.3%	0.0%	12.4%
家族と離れて寂しかった	97	4	10	18	9	138
	77.0%	66.7%	76.9%	64.3%	75.0%	74.6%
人との交流がなく孤独であった	15	1	0	2	0	18
	11.9%	16.7%	0.0%	7.1%	0.0%	9.7%
住居が良くない	10	1	0	7	2	20
	7.9%	16.7%	0.0%	25.0%	16.7%	10.8%
家賃が高い	18	1	3	7	1	30
	14.3%	16.7%	23.1%	25.0%	8.3%	16.2%
交通ルールや規律がわからない	3	0	0	0	0	3
	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
病院が分からない、病院に行くことができない	13	0	0	0	2	15
	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	8.1%
無回答	1	0	0	0	0	1
	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	126	6	13	28	12	185

「実習期間中に困ったことはあった」と有効回答した者の複数回答。

5. 技能実習生の帰国後の状況

(1) 帰国後の就業状況

帰国後の就業状況を見ると、「雇用されて働いている」が36.7%で最も多く、以下、「仕事を探している」(23.9%)、「雇用されて働くことが決まっている」(14.7%)、「起業している」(13.5%)などが多い(図14)。

図14 帰国後の就業状況(N=578)

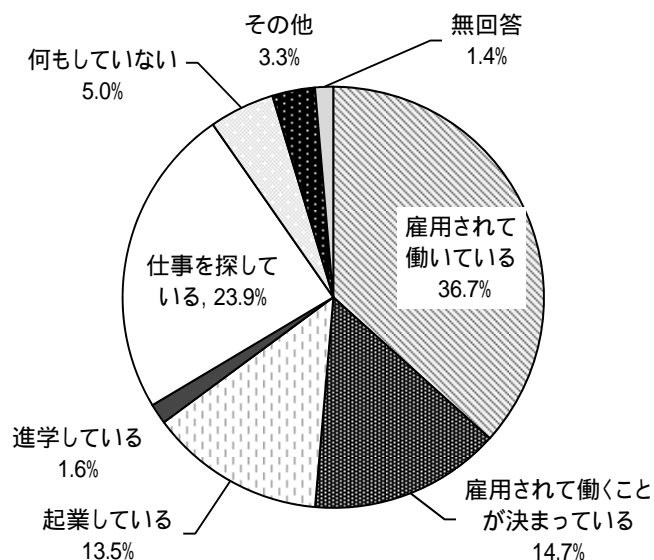


表15 帰国後の就業状況(N=578)

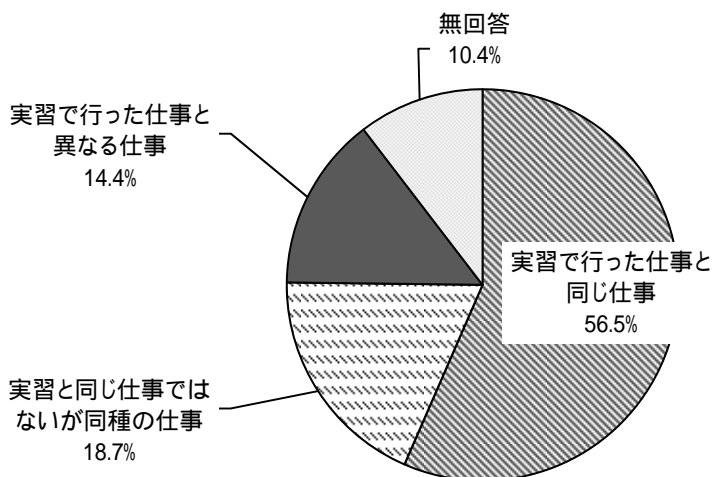
	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
雇用されて働いている	164 41.3%	6 23.1%	15 22.4%	12 19.7%	15 55.6%	212 36.7%
雇用されて働くことが決まっている	57 14.4%	2 7.7%	17 25.4%	8 13.1%	1 3.7%	85 14.7%
起業している	52 13.1%	2 7.7%	11 16.4%	11 18.0%	2 7.4%	78 13.5%
進学している	6 1.5%	1 3.8%	1 1.5%	1 1.6%	0 0.0%	9 1.6%
仕事を探している	77 19.4%	13 50.0%	19 28.4%	22 36.1%	7 25.9%	138 23.9%
何もしていない	23 5.8%	0 0.0%	2 3.0%	3 4.9%	1 3.7%	29 5.0%
その他	10 2.5%	2 7.7%	2 3.0%	4 6.6%	1 3.7%	19 3.3%
無回答	8 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 1.4%
合計	397 100.0%	26 100.0%	67 100.0%	61 100.0%	27 100.0%	578 100.0%

国別に見ると、中国は「雇用されて働いている」(41.3%)、「仕事を探している」(19.4%)、ベトナムが「仕事を探している」(50.0%)、「雇用されて働いている」(23.1%)、フィリピンが「仕事を探している」(28.4%)、「雇用されて働くことが決まっている」(25.4%)、インドネシアが「仕事を探している」(36.1%)、「雇用されて働いている」(19.7%)、タイが「雇用されて働いている」(55.6%)、「仕事を探している」(25.9%)などが多い(表15)。

(2) 帰国後の仕事の内容

帰国後の仕事の内容を見ると、「実習で行った仕事と同じ仕事」(56.5%)が最も多く、以下、「実習と同じ仕事ではないが同種の仕事」(18.7%)、「実習で行った仕事と異なる仕事」(14.4%)などとなっている(図15)。

図15 帰国後の仕事の内容(N=375)



国別に見ると、中国は「実習で行った仕事と同じ仕事」(59.3%)、「実習と同じ仕事ではないが同種の仕事」(19.8%)、ベトナムは「実習と同じ仕事ではないが同種の仕事」(40.0%)、「実習で行った仕事と異なる仕事」(30.0%)、フィリピンは「実習で行った仕事と同じ仕事」(48.8%)、「実習で行った仕事と異なる仕事」(23.3%)、インドネシアが「実習で行った仕事と同じ仕事」(35.5%)、「実習で行った仕事と異なる仕事」(29.0%)、タイが「実習で行った仕事と同じ仕事」(88.9%)などが多い(表16)。

表 16 帰国後の仕事の内容(N=375)

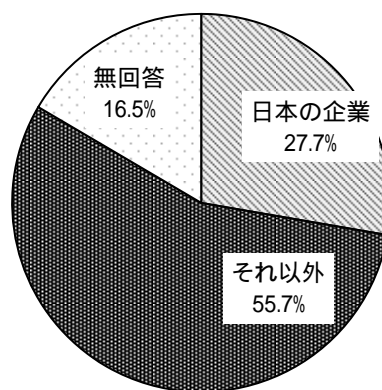
	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
実習で行った仕事と同じ仕事	162	2	21	11	16	212
	59.3%	20.0%	48.8%	35.5%	88.9%	56.5%
実習と同じ仕事ではないが同種の仕事	54	4	6	5	1	70
	19.8%	40.0%	14.0%	16.1%	5.6%	18.7%
実習で行った仕事と異なる仕事	31	3	10	9	1	54
	11.4%	30.0%	23.3%	29.0%	5.6%	14.4%
無回答	26	1	6	6	0	39
	9.5%	10.0%	14.0%	19.4%	0.0%	10.4%
合計	273	10	43	31	18	375
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6で帰国後に「雇用されて働いている」「雇用されて働くことが決まっている」「起業している」と回答した者。

(3) 帰国後の勤務先属性

帰国後の勤務先企業の属性は、「日本の企業」は 27.7%、「日本の企業以外の企業」が 55.7%であった(図 16)。

図 16 帰国後の勤務先属性(N=375)



国別に見ると、「日本の企業」の比率は、中国が 19.4%、ベトナムは 20.0%、フィリピンが 41.9%、インドネシアが 51.6%、タイが 83.3%で、タイ、インドネシア、フィリピンでは帰国後に日本の企業に勤務している実習生の比率が高い(表 17)。

表 17 帰国後の勤務先属性(N=375)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
日本の企業	53	2	18	16	15	104
	19.4%	20.0%	41.9%	51.6%	83.3%	27.7%
それ以外	177	6	14	10	2	209
	64.8%	60.0%	32.6%	32.3%	11.1%	55.7%
無回答	43	2	11	5	1	62
	15.8%	20.0%	25.6%	16.1%	5.6%	16.5%
合計	273	10	43	31	18	375
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6で帰国後に「雇用されて働いている」「雇用されて働くことが決まっている」「起業している」と回答した者。

(4) 帰国後の賃金水準

帰国後の賃金水準を見ると、「来日前より上がった」が72.0%で最も多く、以下、「来日前と同じ」(8.3%)、「来日前より下がった」(5.1%)などとなっている(図17)。

国別に見ると、中国は「来日前より上がった」(78.0%)、「来日前と同じ」(6.2%)、ベトナムは「来日前より上がった」(50.0%)、「来日前より下がった」(30.0%)、フィリピンは「来日前より上がった」(53.5%)、「来日前より下がった」(14.0%)、インドネシアは「来日前より上がった」(45.2%)、「来日前と同じ」(29.0%)、タイが「来日前より上がった」(83.3%)であった(表18)。

図 17 帰国後の賃金水準(N=375)

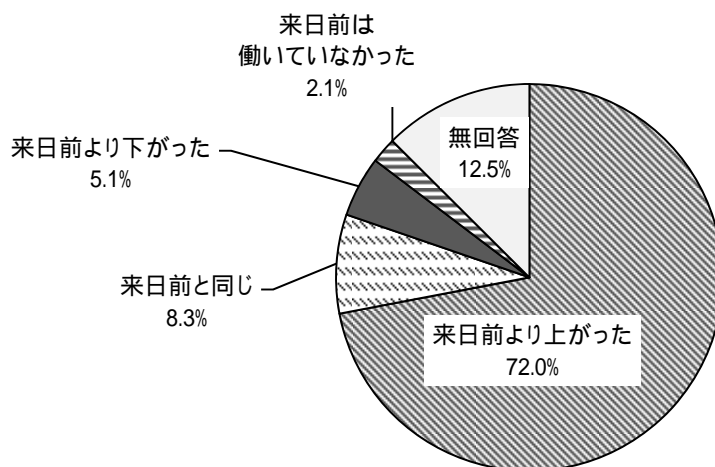


表 18 帰国後の賃金水準(N=375)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
来日前より上がった	213	5	23	14	15	270
	78.0%	50.0%	53.5%	45.2%	83.3%	72.0%
来日前と同じ	17	0	5	9	0	31
	6.2%	0.0%	11.6%	29.0%	0.0%	8.3%
来日前より下がった	10	3	6	0	0	19
	3.7%	30.0%	14.0%	0.0%	0.0%	5.1%
来日前は働いていなかった	2	1	3	1	1	8
	0.7%	10.0%	7.0%	3.2%	5.6%	2.1%
無回答	31	1	6	7	2	47
	11.4%	10.0%	14.0%	22.6%	11.1%	12.5%
合計	273	10	43	31	18	375
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6で帰国後に「雇用されて働いている」「雇用されて働くことが決まっている」「起業している」と回答した者。

(5) 帰国後の予定や希望(帰国後の就業状態が「何もしていない」「その他」と回答した者)

帰国後の就業状態が「何もしていない」「その他」と回答した者と回答した者に対して、帰国後の予定や希望を尋ねたところ、「予定や希望はある」と回答した者が85.4%であったのに対して、「予定や希望はない」と回答した者は12.5%であった(図18)。

国別に見ると、中国は「予定や希望はある」が78.8%、「予定や希望はない」が18.2%であったが、他のベトナム、フィリピン、インドネシア、タイは「予定や希望はある」という回答が100.0%であった(表19)。

図 18 帰国後の予定や希望(N=48)

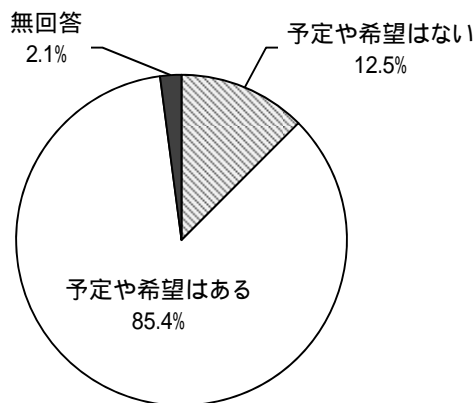


表 19 帰国後の予定や希望(有効回答数 48)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
予定や希望はない	6	0	0	0	0	6
	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
予定や希望はある	26	2	4	7	2	41
	78.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	85.4%
無回答	1	0	0	0	0	1
	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%
合計	33	2	4	7	2	48
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6で、「何もしていない」「その他」と回答した者。

(6)「予定や希望がある」と回答した者の具体的希望

「予定や希望がある」と回答した者に対して、具体的希望内容を尋ねたところ、「起業すること」が34.1%で最も多く、以下、「雇用されて働くこと」(31.7%)、「その他」(19.5%)などが多かった(図19)。

国別に見ると、中国は「雇用されて働くこと」(34.6%)、「起業すること」(34.6%)、ベトナムは「雇用されて働くこと」(50.0%)、「その他」(50.0%)、フィリピンは「起業すること」(75.0%)、「雇用されて働くこと」(25.0%)、インドネシアが「雇用されて働くこと」(28.6%)、「起業すること」(28.6%)、タイが「その他」(100.0%)が多かった(表20)。

図 19 予定や希望があると回答したものの具体的希望 (N=41)

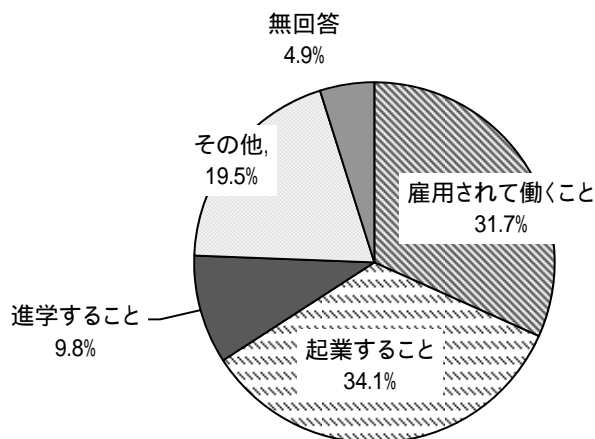


表 20 予定や希望があると回答したものの具体的希望 (N=41)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
雇用されて働くこと	9	1	1	2	0	13
	34.6%	50.0%	25.0%	28.6%	0.0%	31.7%
起業すること	9	0	3	2	0	14
	34.6%	0.0%	75.0%	28.6%	0.0%	34.1%
進学すること	3	0	0	1	0	4
	11.5%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	9.8%
その他	4	1	0	1	2	8
	15.4%	50.0%	0.0%	14.3%	100.0%	19.5%
無回答	1	0	0	1	0	2
	3.8%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	4.9%
合計	26	2	4	7	2	41
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6で「何もしていない」「その他」と回答したものの内、問8で仕事や進路等に今後の「予定や希望はある」と回答した者。

6. 来日手続きについて

(1) 保証金契約の有無

保証金の契約の有無を尋ねたところ、「保証金等契約は締結しなかった」が 83.9%、「保証金等契約を締結した」が 14.7%であった(図 20)。

「保証金等契約を締結した」という回答比率を国別に見ると、中国は 12.1%、ベトナムは 23.1%、フィリピンは 17.9%、インドネシアは 21.3%、タイは 22.2%であった(表 21)。

図 20 保証金契約の有無(N=578)

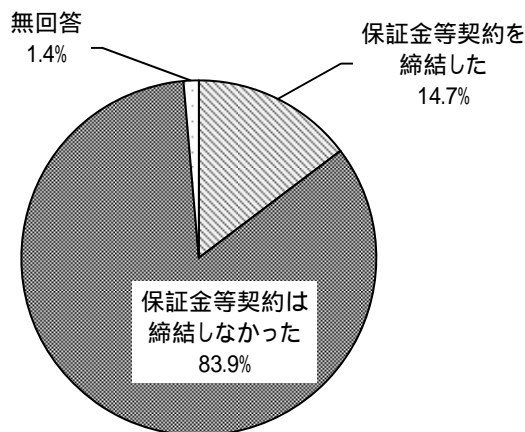


表 21 保証金契約の有無(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
保証金等契約を締結した	48	6	12	13	6	85
	12.1%	23.1%	17.9%	21.3%	22.2%	14.7%
保証金等契約は締結しなかった	343	20	54	47	21	485
	86.4%	76.9%	80.6%	77.0%	77.8%	83.9%
無回答	6	0	1	1	0	8
	1.5%	0.0%	1.5%	1.6%	0.0%	1.4%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 保証金等の徴収の有無

保証金等について、実際にその名目で金品を預けたかどうかを尋ねたところ、「保証金等を預けた」が11.6%、「預けていない」が85.6%であった(図21)。

「保証金等を預けた」という回答比率を国別に見ると、中国は9.6%、ベトナムは23.1%、フィリピンは7.5%、インドネシアは18.0%、タイは25.9%であった(表22)。

図 21 保証金等の徴収の有無

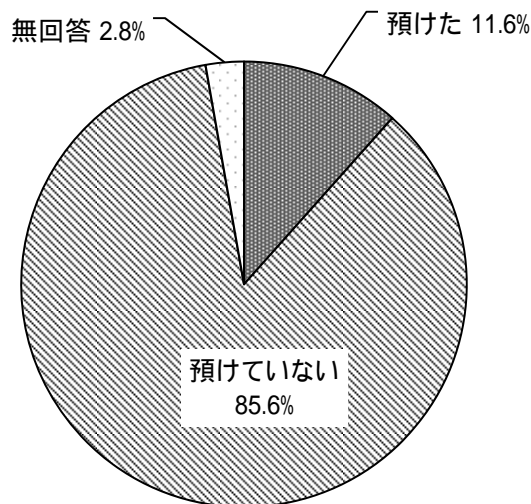


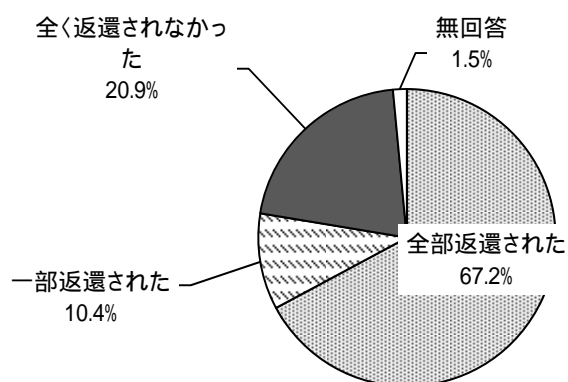
表 22 保証金等の徴収の有無(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
預けた	38	6	5	11	7	67
	9.6%	23.1%	7.5%	18.0%	25.9%	11.6%
預けていない	347	20	62	46	20	495
	87.4%	76.9%	92.5%	75.4%	74.1%	85.6%
無回答	12	0	0	4	0	16
	3.0%	0.0%	0.0%	6.6%	0.0%	2.8%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 保証金等を預けた者の返還状況

保証金等を預けた者の返還状況を尋ねたところ、「全部返還された」が 67.2%、「一部返還された」が 10.4%、「全く返還されなかった」が 20.9%であった(図 22)。

図 22 保証金等を預けた者の返還状況(N=67)



「全部返還された」という回答の比率を国別に見ると、中国は 57.9%、ベトナムは 66.7%、フィリピンは 40.0%、インドネシアが 90.0%、タイが 100.0%であった(表 23)。

表 23 保証金等を預けた者の返還状況(N=67)

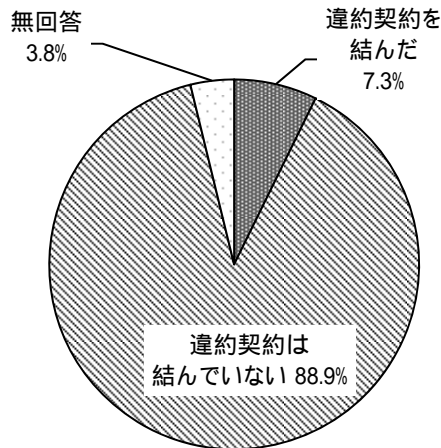
	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
全部返還された	22	4	2	10	7	45
	57.9%	66.7%	40.0%	90.9%	100.0%	67.2%
一部返還された	5	1	0	1	0	7
	13.2%	16.7%	0.0%	9.1%	0.0%	10.4%
全く返還されなかった	10	1	3	0	0	14
	26.3%	16.7%	60.0%	0.0%	0.0%	20.9%
無回答	1	0	0	0	0	1
	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
合計	38	6	5	11	7	67
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「保証金等を預けた」と回答した者。

(4) 違約金契約を結んだかどうか

違約金契約を結んだかどうかを尋ねたところ、「違約契約を結んだ」が7.3%、「違約契約は結んでいない」が88.9%であった(図23)。

図 23 違約金契約を結んだかどうか(N=578)



「違約契約を結んだ」という回答を国別に見ると、中国が5.8%、ベトナムが19.2%、フィリピンが7.5%、インドネシアが6.6%、タイが18.5%となっている(表24)。

表 24 違約金契約を結んだかどうか(N=578)

	中国	ベトナム	フィリピン	インドネシア	タイ	合計
違約契約を結んだ	23	5	5	4	5	42
	5.8%	19.2%	7.5%	6.6%	18.5%	7.3%
違約契約は結んでいない	359	21	58	56	20	514
	90.4%	80.8%	86.6%	91.8%	74.1%	88.9%
無回答	15	0	4	1	2	22
	3.8%	0.0%	6.0%	1.6%	7.4%	3.8%
合計	397	26	67	61	27	578
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

7. 帰国技能実習生アンケート調査結果のポイント

今回の調査で、技能実習が役に立ったと回答している有効回答 569 人に、具体的に役に立った内容を複数回答できいたところ「修得した技能」(69.1%)、「日本での生活経験」(62.2%)、「日本語能力の修得」(60.8%)、「日本で貯めたお金」(59.4%)の順で回答が多かった。また、「実習期間中の困ったこと」については、これも複数回答できいたところ「家族と離れてさびしい」(74.6%)、「残業が少ない」(21.6%)、「仕事が厳しい」(18.9%)、「賃金が少ない」(15.7%)の順で回答が多かった。

さらに、帰国後の就業状況については、仕事が決まっている者は、56.6%が「実習と同じ仕事」についていた。そして、「日本の企業」に就職していると回答している者は 27.7%で、55.7%は「日本以外の企業」で働いている。

担当者：
 経済社会と労働部門 統括研究員 渡辺 博顕
 調査・解析部 主任調査員 野村かすみ

本件問い合わせ先：
 労働政策研究・研修機構 研究調整部
 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 電話 03-5991-5104